

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401608		
法人名	有限会社 八神		
事業所名	グループホーム「あまざり」		
所在地	長崎県南島原市深江町丙357番地		
自己評価作成日	平成 30年 9月 15日	評価結果市町村受理日	平成 31年 2月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 30年 11月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「毎日が笑顔」をモットーとし、季節の食材を美味しく食べる。
洗濯物を干したり、たたんだり食材の下ごしらえを職員と一緒にしています
家族の面会時間を制限せず夜間寝顔を見に来られる家族や昼食夕食の介助に毎日来て下さる家族がいらっやいます
残された人生に家族が関われ時間を支援したいと思えます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年に開設された当ホームは、代表者の「高齢者が余生を毎日楽しく笑顔で暮らしていけるよう介護者として共に過ごしていきたい」との思いでグループホーム運営を始められています。ホームでは近隣住民の方から頂く旬の野菜を使った食事づくりに取り組まれており、敬老会で作るべた餅やふかし芋を地域の方へ届けるなど地域との交流が盛んであることが窺われる。また、地域中学生の福祉体験学習についても積極的な受け入れが行われており、共用スペースには交流の様子を収めた写真が掲示されている。ホームでは年に2~3回僧侶によるギター演奏やフルート・尺八演奏などのコンサートが開催され、余暇活動への積極的な取り組みが窺われる。看取りについては現在1名の方への支援に取り組まれている。ホームでは入居者の住みよい生活の実現のため、平成30年7月に玄関部分のスロープへの変更やフロアシートの全面張替え・キッチンシンクの入替え、共用の洋式トイレを1台増設し計3台にするなどの改修工事を終わられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名
グループホーム「あまざり」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日が笑顔」をモットーに利用者、利用者の家族、職員の笑顔を多く見られる様に心がけている	ホームでは、理念にある「誰もが毎日笑顔で楽しく生活ができるように」という目標に向けて管理者や職員全員が笑顔で施設運営と実践に取り組むよう努められている。理念についてはホームのリビングに掲示されていたとのことだったが、平成30年7月の改修工事の際に外したままとなっている。	ホーム理念については「今後は共用スペースに掲示する予定」と管理者より説明がある。早期に掲示するなどして職員間で共有するよう活用することが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	目の前の新生堂やまるけんに買い物に行ったり近所の人が遊びに来て下さいます	ホームは、近隣の方からの野菜やイチゴなどの差し入れや敬老会で作るべた餅やふかし芋を地域の方へ届けるなど地域との交流が盛んであることが窺われる。また、中学生の福祉体験学習を毎年4~7名程受け入れており、交流の様子を収めた写真を共用スペースに掲示されている。その他にも地域の僧侶によるギター・フルート・尺八の演奏会が年2~3回開催されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験学習(中学生)の受け入れを予定しています。10月31日、11月1日の2日間		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況、日常の様子家族の要望、行事、入所、退所報告等や研修会の紹介、問題解決への話し合いをしている	運営推進会議は年6回開催されており、市職員・市議会議員・島原地域広域市町村圏組合職員・自治会長などの参加がある。会議では入居者の生活状況やホームでの取り組みの報告を行っている。会議参加者の助言から玄関スロープの改修への取り組みに繋げるなどサービス向上に努められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護課の方と連絡や毎月の書類提出を行う介護保険課の方にわからないことを相談しアドバイス頂いています	運営推進会議には市職員等の参加があり、ホームの課題についての助言を頂いている。また、職員は福祉事務所に入居者の生活保護についての相談や申請補助などで日頃より出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロ宣言をしています 帰宅願望のかたは居場所確認や職員全員の目配り、声かけ玄関の鍵は常にあけてあります	ホームでは開設当初より身体拘束ゼロ宣言を行い、「身体拘束に関する指針」に基づき日々の支援に取り組まれている。日中は玄関や窓の施錠を行わず、ベッド柵も可能な限りしない。職員はリスクマネジメントや虐待についての研修に参加し、ケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護拒否や暴力行為がある場合職員交代や時間を空け声掛けする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時説明し同意してもらう		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時、必要な時電話にて要望、意見を聴くお便りや個人の写真集を送ると遠方の家族より電話があり本人とお話しされるLINEでのやり取りをしている家族もあります	ホームでは家族や近隣の友人などが仕事帰りや一日に何度でも面会ができるよう、全ての職員で対応に努められている。また、面会の際に入居者と職員の食事や会話などに家族が参加する中で出た意見や要望を取り入れ、運営に活かされている。その一例として、SNSを利用した入居者の近況報告が挙げられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングで利用者、家族の要望を報告 支援について意見交換し介護方法をする統一	毎朝行われるミーティングや毎月の職員会議、毎日の支援の中で、代表者・管理者・職員間で意見交換を行いながら、よりよい支援や運営に反映されるよう取り組まれている。職員は「代表者や管理者、職員全ての方が話しやすく、ストレスまでも聞いてくれるので助かります。」と話される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時希望を記入してもらう 労務士の方と話し合いながら」給与水準を設定		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	長崎県グループホーム協会主催の研修、島原半島グループホーム連絡協議会本部の研修、南ブロック研修に参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入所希望の方の受け入れが出来ず困られているときは他のホームを紹介しました。2名の方が入所されましたし、入所についてのいろいろな相談を受けたりしてます(介護保険課の方と相談された結果を教えてくださいました)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報作成し、ご家族に本人の出来る事を聞き、家族と話し合いをし了解の元サービスを提供する		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「あまぎり」での暮らしぶりを見ていただきたいので、入所されて不安を感じられる場合は毎日でも夜間でも面会に来ていただく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、医療機関、居宅からの情報提供と家族の希望や本人の様子を見ながら作成		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る部分は声掛け・見守りを行い、出来ない部分は手助けさせていただく		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時やTELにて近況報告 衣服等の補充や困っていることなど家族からの相談をその都度気軽に話をしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆に家族が来られている人を自宅まで送ったり昼食、夕食の介助に来て下さる家族を受け入れてます(毎日)	職員は家族や近隣の友人が自由に訪れてリビングやソファーに入居者と一緒に座って会話や交流ができるように支援に取り組みされており、毎日訪れる家族もある。また、入居者の自宅まで職員と一緒に出掛け、住み慣れた地域との関係継続の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人とソファーでお喋りをされたり、一緒にテーブルで作業をすることによりすることで会話をたのしまれている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	7月に本人希望で養護老人ホームに入所したいといわれるので問合せ空きがあることを家族に連絡 手続に行ってもらいました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で、入居者の思いや悩みを知り、その方が笑顔で暮らせるように支援する	職員は入居者の食べたい物やしたいことに耳を傾けるよう努め、支援に取り組まれている。対話が困難な入居者については表情や仕草から読み取るようにし、利用者本位となるよう努めている。実践例として、近くのパン屋にパンを買いに行く、レストランでの外食、公園近くの饅頭を買いに行く、などが挙げられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅から入所された方の暮らしぶりは把握できないことが多い、日々(ホーム)での暮らしの中と家族の会話で把握する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	視診・触診・バイタルや夜間の様子・日常の会話の中で把握する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討会を開き、本人・家族の希望を聞き、日々の様子など職員に話を聞きながら、それに基づいて計画を作成する	介護計画は、入居者・家族の希望や医師の助言などを勘案した生活課題を捉えた内容となるよう作成されている。介護計画は3か月に1回評価を行い、次の介護計画作成に活かされている。また、入居者の状態の変化にも迅速に対応した現状に沿った計画の作成がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、ケアプランチェック表、看護記録を活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望、本人の特変時に素早く対応		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知り合いの漁師の方が取り立ての魚をくださったり、落花生、野菜を職員が畑まで収穫に行きます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族へ受診前後の報告を行う また家族からの相談・希望など主治医に伝え、アドバイスをいただき、家族に伝える	ホームでは入居者と家族が希望する主治医を選択でき、通院は家族対応となっている。家族が対応できない場合には職員が受診に付き添い、受診後家族に結果報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護職員へ情報を伝え、その方が適切な看護、受診がうけられるよう連携を図る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供、本人の問題行動について介護サマリーを提供する		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをする体制はありますがH27年が最後です 必要な書類を作成し、家族・主治医・訪問看護等との連携、指針作成し、家族への説明・同意をとる	ホームでは代表者及び管理者が緩和ケア(ビハーク)や看取りについて学び、終末期生活支援に関する覚書の作成や利用者・家族が希望する主治医の往診ができるよう連携するなど、ホームでの看取りの体制が整備されていることが窺える。家族からの依頼もあり、訪問調査時において1名の方の受け入れがなされている。毎日のケア記録をもとに、臨機応変で迅速な対応に努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等には各自何をやらなければならないか状況に応じて行動できる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	近隣住民、ホームの近くの家族の方の協力は得られるように話をしています	ホームでは、消防署立会いのもと昼及び夜間を想定した火災消防避難訓練が実施されている。近隣には消防団員も暮らしているとのことで、日頃より防災について話す機会があり、地域住民と共に火災や防災被害などに取り組めるよう、話し合いが行われている。	ホームでは避難訓練・消防設備点検共に実施されており、災害時に必要な備蓄品等についても「備災箱」を5箱施設内の畳の間に備えており、いつでも持ち出せるように準備されているが、備蓄品リストが作成されていなかったため、早期作成が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた言葉がけをする中にも敬意を払った言葉がけ、対応をする	職員は入居者一人ひとりに合わせた声掛けを行っており、友人の面会がある時には服を一緒に選ぶなど個人の尊厳に配慮した対応に努めている。接遇に関しては外部研修を受けたりホーム内でDVDを見るなどして学習している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言いたいことは本人の様子で分かりますが、言葉を発し、意思を伝えてもらうよう支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や外に出たいとの訴えに支援 また、帰宅願望ある方には、無理強いせず、「さようなら、いってらっしゃい」と声掛けし、一緒に外出する		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合う洋服を来ていただくよう声掛けします		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を活かし美味しく食べてもらう飲み終えたコップをかたずけてくださる。お刺身の提供もある	職員は入居者から何を食いたいのか聞き取りを行い、それを1週間の献立に活かしている。近隣の方から差し入れられた旬の野菜は入居者の要望に沿えるよう工夫されており、食べやすいよう配慮がなされている。入居者の誕生会にはケーキやちらし寿司、刺身などの提供もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ルイボス茶を1日1500ml以上を飲用していただいています。水分でむせがある人はゼリーに替える。食物アレルギーの方もいるので代替え食にしている。その人に合った食事の提供		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをしていただき夜間義歯洗浄剤にて消毒		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンを24時間シートにて把握、頻尿のかたは主治医との連携を取り薬の処方あり	職員は介護度が高い方もトイレで排泄ができるよう支援に取り組まれている。入居者の尿取りパットやオムツが外れるよう目指し、入居者一人ひとりの排泄パターンの把握のため24時間シートを活用しており、定期的な声掛けもやっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と野菜類の摂取に気掛けてます。牛乳を毎朝飲用していただきます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の合った人と入浴され湯船の中で歌をうたわれています	ホームでは1日おきの入浴を基本としており、入居者が希望する湯温や時間(朝、昼、夕、寝る前)に合わせていつでも入浴が楽しめるよう取り組まれている。介護度が高い方については2名の職員で対応し、湯船に浸かることができるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今年の夏は暑さが厳しかったので全室24時間くらーを付けたり、汗かきさんはシャワー浴施行してます		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の種類を把握し確薬又薬剤師の先生にアドバイスを頂く事があります主治医と定期的に連携を取り眠剤の処方を廃止する方向にさせていただく		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	最近訪問コンサートに参加したり、歌謡曲(懐メロ)をテレビで流したりしてます。おやつに食べたいものを選んで貰い食べている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場有明の百華亭までドライブに出かけ溶けないアイスクリームを食べてきました	ホームでは入居者の要望に沿って買い物やドライブに出かけており、観光名所や花が咲く公園に出掛けるなどし、外食支援も行っている。また、ホームの庭で家族や地域住民と一緒にバーベキューを行うなど、協力を得ながら外出支援を行っていることが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物やおみこしのお賽銭等本人の要望に応じて使えるよう支援		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだりLINEで動画や写真を送ります(希望者のみで遠くの家族)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングや洗面所に季節の花を置いたり 娛樂室に横になれたり日向ぼっこをされています	ホーム共用スペースには入居者や家族が自由に交流できるよう椅子やテーブル・ソファが配置されている。大きな窓からは日が差し込みホーム内は明るく、リビングに設置された大型テレビでは時代劇の視聴などができ、日中には窓を開けて空気の入替えを行うことにより、外気の状態や季節を感じられる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き気の合う人と座ったりできる。本人専用の椅子を置いたりしてます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時家族と本人、職員が話し合いながら自分の居場所を作ってもらいます。元気な時本人が書かれた油絵を飾ったり、写真を飾ったりされてます	居室は入居者・家族と職員が入居する際話し合い、入居者が落ち着ける環境づくりに取り組まれている。また、室内には仏壇を飾ったり布団で就寝できるよう畳を敷いたり、入居者が居心地良く過ごせるような配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアプランに併せ手すりを付けたり、エアマット、ポータブルトイレ、畳、マットレスを使用しています		